



一般社団法人
神奈川大井の里体験観光協会
〒258-0012 神奈川県足柄上郡大井町柳 248
TEL/FAX : 0465-43-6309
E-mail : office@taikenkankou.com
HP : http://taikenkankou.com

受託者

一般社団法人
神奈川大井の里体験観光協会
神奈川県知事登録旅行サービス手配業第 59 号

75分

25分

概要版

令和5年度 神奈川県委託

「県西地域における 広域ワーケーションモデル事業の企画・運営等業務」成果報告

かながわ西 ハタラカラス

Report 2 1

モデル 2
農ある暮らし
「お試し暮らし型」ワーケーション
地域のお仕事体験
「ワーキングホリデー型」ワーケーション

モデル 1

都心からのアクセスが良く、山あり海あり温泉ありで、地域活動や生活文化も豊富な地域である。神奈川県では、こうした魅力を生かした県西地域でのワーケーションを広めるため、令和5年度、地域との交流をコンテンツとして組み込んだ「広域ワーケーション」のモデルツアーアを企画・実施した。本紙では、令和5年度に実施した2つのモデルツアーアの内容を中心に報告する。

神奈川県
西部

ワーケーション
Workcation



概要

1. 本事業の全体像

当会は、神奈川県足柄上郡大井町にて、持続可能な地域社会の実現に向け、地域課題を解決するための体験観光事業を実施している。高齢化や価格下落等による農地荒廃、離農者増加など地域課題が山積する中、地域の資源を活用した農業体験や収穫体験、加工体験などを通じた観光客の受け入れを行うことで地域活性化につなげている。一方、2市8町を見渡しても状況は変わらず、多くは人口減少等による課題を抱えている。こうした状況下、地域の特徴を活かして山間部、里地里山、海岸部など地域間での事業連携も行なっている。こうした実績やノウハウを活用した体験交流プログラムの発掘・磨き上げによるワーケーション事業を開拓すべく以下、事業を構成した。

本事業では、(1) 昨年度の実績を踏まえた体験交流プログラムの発掘・磨き上げによる県西における広域ワーケーションモデル事業2コースの造成、(2) 県西における広域ワーケーションモデル事業2コースの実証、(3) 事業報告書の作成および、県西地域の市町や観光協会等に対して、自走化を想定したツアー実施にかかる具体的なノウハウを含む報告会を実施した。

2. ワーケーション類型の再整理

昨年度に実施した「県西地域における広域ワーケーションモデル事業の企画・運営等業務委託」にて行なっ

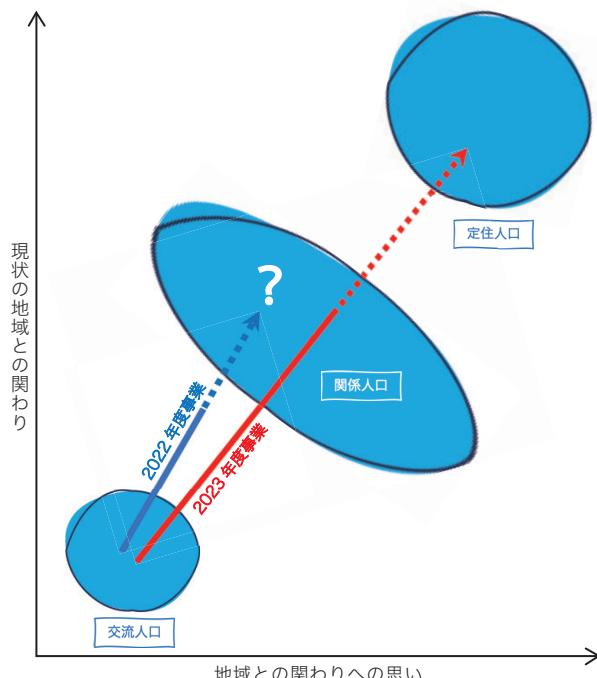


図2 定住人口を見据えた関係人口の創出・拡大

参考：「関係人口ポータルサイト」、総務省より作図

たワーケーション類型をもとに、本年度の事業の位置付けの整理からはじめた。

本事業を採択された昨年度は、観光庁の示すワーケーション実施形態に基づき、県西地域の特性や課題を考慮した3つの枠組みに整理し、『関係人口の創出・拡大に向けた「広域ワーケーション」モデル事業の実証』を行った。一定数の関係人口の創出・拡大にはつながっているものの、定住人口に繋がるかは未知数であり、より継続した働きかけが必要になると感じた。

そこで本年度は、関係人口の先にある「定住人口」を見据えた関係人口の創出・拡大（図2）に向け、「働く」と「暮らす」を明確にした「広域ワーケーション」モデル事業の企画・運営を行い、より域内への移住定住・二拠点居住等につながる可能性のある関係人口の創出・拡大に寄与できるかを検証した。

なお、ライフステージに応じた多様な移住プロセスを考慮し、昨年度は「関与・関係併進型（関わりの段階モデル）」による関係人口の創出・拡大へ向けた3つのターゲットへ向けた取り組みを行なったが、本年度は「関心先行型」（図3）による地域への思いの創出から移住につなげる取り組みとして、2つのターゲットに応じた2パターンのモデル事業を企画・造成し、運営・検証を行なった。

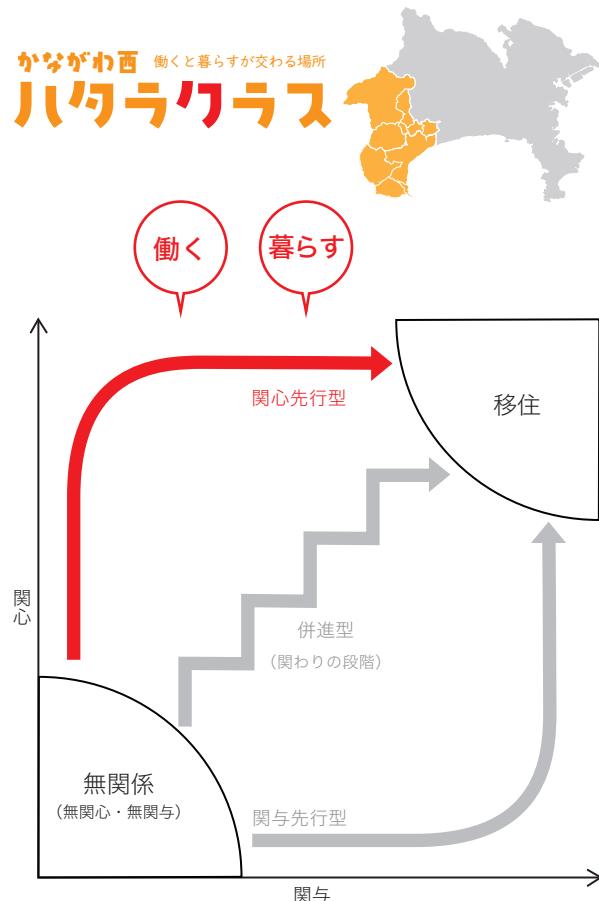


図3 地域への関わりの段階

参考：「農山村集落の実態と政策課題」、小田切徳美、2019.11.01より作図

1 モ^デル

農ある暮らし 「お試し暮らし型」ワーケーション

「定住人口」の創出につながる関係人口の創出・拡大に向け、「暮らし」と「地域交流」を軸とし、セカンドキャリアの「暮らし方」のイメージづくりから、ふるさとづくりの担い手につながるような、農ある暮らし『お試し暮らし型』ワーケーションモデル事業の磨き上げ・造成を行なった。

- 対 象：都市の喧騒を離れ、自然環境に恵まれた地域での暮らしを求める 50-60 代を中心とした世代の方（3組）
- エリア：南足柄市・中井町・大井町・松田町・開成町

総務省の『過疎地域への移住者に対するアンケート調査 / 平成 29 年度第 2 回「田園回帰」に関する調査研究会』の年代別アンケート結果によると、地域へ移住した 50-60 代では「移住する際、重視した条件」として、1 位に「大がかりな改修をしなくともすぐに住める家があること /50 代」「居住に必要な家屋や土地を安く入手できること /60 代以上」が挙げられている。次いで「生活が維持できる仕事（収入）があること」「買い物や娯楽などの日常生活に必要なサービスや生活関連施設があること」「病院や診療所、介護施設など医療・福祉の環境が整っていること」などが挙げられているものの、「何年か行き来して知り合いができたり、生活していくける目処が立っていること」も上位にランキングしていることから、地域とのつながり要素も重要視していることが分かる。そこで本モデル事業では、都心の喧騒から離れ、自然環境に恵まれた地域で「お試し暮らし型」のワーケーションとして、町内住宅に滞在して、住民や農家との交流、観光やテレワークをしながら過ごすツアーとして関係人口の創出・拡大を目指し、1 泊 2 日のコースと 2 泊 3 日の 2 コースを造成した。

本ツアーは農に親しみながら、地元飲食店を利用したり、地元スーパー・直売所にて購入した食材で自炊したり、移住後の生活擬似体験を行うことができる特徴のツアー。大井町の「お試し住宅」と民泊（モニター・民泊）を利用して、より暮らしに密着した時間を過ごしてもらうことを狙った。また、神奈川県が紹介する県西地域のコワーキングスペースを活用したテレワークや、ポケット Wi-Fi を貸与し、場所にこだわらずテレワークができるよう体制構築を行なった。

さらに、自身で域内を自由に散策していただけるよう、地域に暮らすコンシェルジュと LINE グループでつながり、観光情報、生活情報、おすすめの情報などを入手できるサービスを提供した。なお、ツアー終了後もコンシェルジュとの交流を継続させることで、再来訪につなげる仕掛けとした。

2 モ^デル

地域のお仕事体験 「ワーキングホリデー型」ワーケーション

「定住人口」の創出につながる関係人口の創出・拡大に向け、「働き方」と「地域交流」を軸とし、移住・定住あるいは、二拠点居住など新しいライフスタイルの獲得に向け、新たな「働き方（生活）」がイメージできるよう、地域のお仕事体験をする『ワーキングホリデー型』のワーケーション事業の磨き上げ・造成を行なった。

- 対 象：地域への「関わりしろ」を求める 20-30 代の若い世代 / 子なし
および、セカンドライフを地方に求める 50-60 代を中心とした世代（24 名）
- エリア：小田原市・南足柄市・中井町・大井町・松田町・開成町・山北町

同様、総務省のアンケート結果によると、地域へ移住をした 10・20 代、30 代では「移住する際、重視した条件」として、1 位に「生活が維持できる仕事（収入）があること」が挙げられている。次いで「買い物や娯楽などの日常生活に必要なサービスや生活関連施設があること」「子育てに必要な保育・教育施設や整備が整っていること」「居住に必要な家屋や土地を安く入手できること」が挙げられている。さらに続いて、10・20 代、30 代でも「何年か行き来して知り合いができたり、生活していくける目処が立っていること」が上位にランキングしていることにも注目している。そこで本モデル事業では、地域のお仕事を体験することで地域で働くこと（副業・複業含め）で、収入のイメージづくりと地域の仕事とのマッチングの機会につながることを期待し「ワーキングホリデー型」のワーケーションとして、お仕事先の方々との交流、観光やテレワークをしながら過ごすツアーとして関係人口の創出・拡大を目指したツアー造成を行なった。

本ツアーでは、あらかじめ自分の希望した「地域のお仕事」を 2 つ体験できる。また、自由に域内もコワーキングスペースを活用したテレワーク時間も設けており、移住後のさまざまな働き方を通じた仕事をイメージしてもらうのが特徴のツアー。さらに、自身で域内を自由に散策していただけるよう、地域に暮らすコンシェルジュと参加者同士が LINE オープンチャット機能を活用してつながり、観光情報、生活情報、おすすめの情報などを入手できるサービスを提供した。ツアー終了後もコンシェルジュとの交流を継続させることで、再来訪につなげる仕掛けとした。

T モデル

農ある暮らし 「お試し暮らし型」ワーケーション

「定住人口」の創出につながる関係人口の創出・拡大に向け、「暮らし」と「地域交流」を軸とし、セカンドキャリアの「暮らし方」のイメージづくりから、ふるさとづくりの担い手につながるような、農ある暮らし『お試し暮らし型』ワーケーションモデル事業の磨き上げ・造成を行なった。

箱根・小田原

1日目 (11/10.金)

2泊3日コースは、2組4名の方が金曜日の11時に集合した。1組はすでに何度か大井町に通っている方で、農ある暮らし方に興味を持っている方々であった。もう1組は、日本で暮らす場所を探しているというご夫婦で、夫は台湾の方、妻が日本の方という方々であった。会場は、開成町の瀬戸屋敷の蔵。非日常空間での気持ちの高揚や、地域の雰囲気を伝えられる場所にてオリエンテーションを実施。ツアー中の過ごし方、地域の観光案内、お試し住宅の利用方法など事務的な話に加え、LINEグループで情報収集、共有などを行える仕組みに挑戦すべくレクチャーを行なった。参加者同士はもちろん、地域の案内役として地域の方にコンシェルジュになっていたいただき、LINEグループに登録、サポートする仕組みである。グループへの登録後は、手始めにみなさんに自己紹介を投稿してもらい、使い方に慣れもらつた。

オリエンテーション後は、農への興味喚起につながるよう、JA職員からの午後に体験するキウイ収穫等についての講話を行なった。県西地域でのキウイ栽培は、いつ頃からはじまり、どのような作業を経て出荷され、どれくらいの量を栽培しているのかなど、話を聞くなかで、「国産キウイ」が身近にあることに驚いている参加者もいた。その後は、ランチ交流会を設定した。蔵の2階の



空間にて円座で、地元野菜などを使った弁当を食べながら自由な交流を行なった。いろんな話をするうちに、少しずつ緊張がほぐれていく様子が伝わってきた。

昼食後は【農ある暮らし体験1】にて、キウイの収穫・選果作業体験と貯蔵庫見学であった。朝からあいにくの天気であったため、雨天プログラムとして用意していた収穫したキウイの加工体験としてキウイジャムづくりを行なうべく、傘をさしながら材料調達に出かける予定が、キウイ畑に到着した途端に雨が上がり、急遽、晴天プログラムとしてのキウイの収穫体験をすることとなった。参加者数に合わせ数本のキウイの木に実っているキウイを総もぎする。JA職員からキウイのもぎ方を教わってからもぎはじめめる。片手でキウイを掴み、回しながら引っ張るとポロッと取れる。意外と簡単に収穫ができ、新鮮な体験にどんどん収穫していく。しかし、キウイ畑はオーナーさんの背丈に合わせてもぎ易い高さに枝を這わせているため、参加者にとっては腰を曲げた状態での作業となった。1時間程度で総もぎを終え、次に向かったのは貯蔵庫の脇の作業場である。ここで今度はキウイの選果体験を行う。「良・普通・それ以外」の3種類に分類。形や大きさ、傷の具合などを見ながら選果していく。はじめは慣れずにもたもたしていたが、徐々に慣れ始め、作業スピードが上がっていく。途中、「出荷する際は規



- 日 程：2023年11月10日（金）～12日（日）のうち1泊2日コースと2泊3日コースを設定して実施
 - 参加者：都市の喧騒を離れ、自然環境に恵まれた地域での暮らしを求める方をターゲットに3組6名の参加
 - エリア：南足柄市・中井町・大井町・松田町・開成町
 - 協 力：JAかながわ西湘、大井町役場（お試し住宅）、農家（大井町・中井町）
大井町体験活動指導者 /NEAL プログラム委員会（自然体験活動指導者）



格外だけど、こんな扁平なキウイがほんとはうまいんだよ」など、流通や出荷に関する会話なども飛び交っていた。せっかくなのでと雨天プログラムも実施すべく、瀬戸戸敷の蔵へ戻ることにした。

収穫したてのキウイは追熟しなくては食べられないため、木から熟して落ちているキウイを使ってジャムづくり体験を行なった。キウイを切って、砂糖と一緒に焦げないように煮詰めて水分を飛ばす。藏中に甘いキウイのいい香りが満たされる。最後の決め手はレモン汁を少し垂らすことで味がグッとしまる。そして、出来立てのジャムはお土産用に瓶に詰めた後、残ったジャムをクラッ



カーに乗せて試食をする。その美味しさに歓喜の声が響き渡った。農ある暮らし体験を通じ、参加者同士の交流も進み良い雰囲気になってきた。

その後、翌日の12時まではフリータイムである。LINEグループによるコンシェルジュを活用して域内を観光するもよし、夕食の買い出しにいくもよし。また、金曜ということもありコワーキングスペースでのテレワークを行ふもよし。それぞれのペアは瀬戸屋敷を後にした。

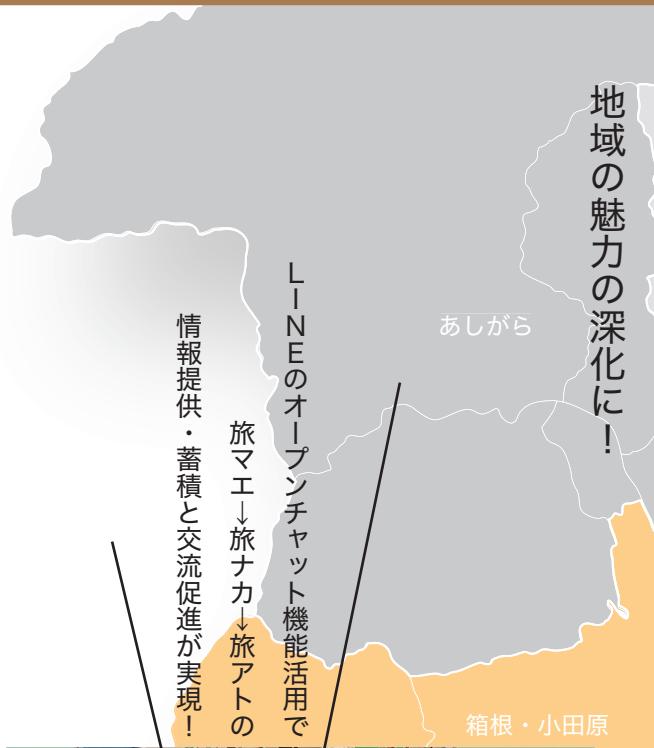
LINE オープンチャットへの投稿から参加者は、スイーツ店へ出かけたり、チェックインをして夕食を食べに出かけたりしたことが伺えた。

2日目 (11/11. 土)

ツアー2日目からは、1泊2日コースの方々1組2名が合流する。11時に大井町農業体験施設「四季の里」に集合した。2泊3日コースに参加の方は午前中フリータイムであったがLINEグループへの投稿から、朝の里山散策をしたペアやコワーキングスペースArを利用されたペアなど、それぞれのお試し住宅の立地に合わせた行動をされていたようである。

2日目から合流されたペアは前日同様、ツアーチャーの過ごし方、地域の観光案内、民泊での過ごし方など事務的な話に加え、LINE グループに登録、サポートする仕組みについてのレクチャーを行い、LINE グループへの挨拶投稿をしてもらったところで、2泊3日コースの方々とリアル合流をして、ランチ交流会に向け農家のご自宅へ移動した。

農家の家に到着後、お茶を飲みながら農家の家についてのレクチャーを受けた。間取りや昔の冠婚葬祭はすべて家で行っていたため、たくさん的人が集まるようなくくりになっているような話などを聞いた。実際の農家の家を見学できたことが農ある暮らしの「暮らし」のイメージづくりにもつながったと思われる。その後は、ランチ交流会。本日も地場野菜を使った地元の手づくりお弁当を囲み、和やかな交流の機会となった。また、デザー



民泊による滞在が
より一層、
地域の魅力の深化に！



トには、これから植えるそら豆（冷凍しておいたもの）の試食を通じて、そら豆の植え方などの講話がはじまり、いよいよ畑へ出かける準備が整った。

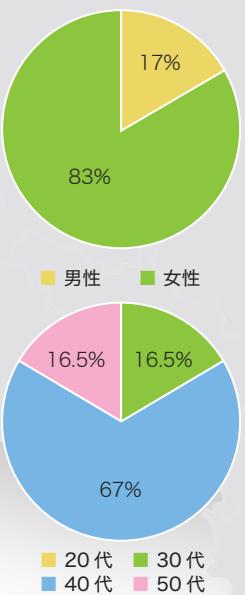
1泊2日コースの方は、【選べる！選択プログラム】にて A：フリータイム、B：農ある暮らし体験のいずれかを選択することになっている。また、1日目と2日目で各1回ずつ選択する必要があり、今回の参加者ペアは1日目をAコース、2日目にBコースを選択したため、一旦ここでお別れである。引き続き、1日目から参加している2組4名で畑へと向かった。

いよいよそら豆の植え付け体験がはじまる。その前に、

畠を整地し、畝をつくり、肥料を撒いてからマルチを張る。ここまでが一苦労である。そして、やっとそら豆の種まきができる。配られた種をみてみんな驚愕する。なんともグロテスクな色合いである。防虫対策や誤って食べないようにと着色されていることを知る。植え方にも向きがある。どのように芽が出て葉が開くのかを想像して、少し種の頭を出して植えるなど、農業 / 家庭菜園の手解きを受けた。ただ種を蒔けば良いだけではないことを改めて知る。農ある暮らしへの一歩を踏み出した気がした。このように畠作業は大勢でとりかかると楽である。マルチを張るにも、種を植えるにもあっという間にできてしまった。そんな喜ぶ農家と記念撮影をして終了となった。家に戻る途中、ごほうびとしてみかんの収穫体験もさせていただけた。そして、17時からのホームパーティー交流会を前に解散した。1泊2日コースの方々は、民泊家庭の方との対面式を行なった。

17時からのホームパーティーは、赤田地区にあるお試し住宅で実施。昔ながらの平家であり、みなが集って交流会ができるような作りになっていることを学んでいたので、利用を通じて実感する。農家と地域の方、役所の方などを交えて交流会スタート！地元の仕出しにて、相模湾の海の恵み、大井町相和地区の野菜、桜花漬のおむすび、地元そばの会の打った地粉のあしなが蕎麦を堪能

■ 参加者の属性（性・年代）



■ 参加者募集チラシ／ツアー行程



1 まずは生活に便利な【市街地】に滞在

日程：11月10日(金)～12日(日)
場所：大井町地区のお試し暮らし
(30分)駐車場あり(無料です)
定員：1組/2～6名程度
費用：9,500円/人

2 泊3日の滞在コース

日程：11月10日(金)～12日(日)
場所：大井町地区のお試し暮らし
(30分)駐車場あり(無料です)
定員：1組/2～6名程度
費用：9,500円/人

3 はじめは心細いの【町民の家】に滞在

日程：11月11日(土)～12日(日)
場所：大井町地区のご家庭
(30分)駐車場あり(無料です)
定員：1組/2～6名程度
費用：5,500円/人



する。もちろん、地域の地酒を並べて会話も進んだ。

3日目（11/12.日）

最終日、民泊体験をしていたペアからは素敵な朝食画像がLINEグループに届いた。各自が滞在施設で朝食を済ませて、午前中は皆が【農ある暮らし体験3】へ参加する。集合時間、集合場所を間違えないようLINEグループへの投稿を行なったこともあって、各自が自家用車等で中井町の農家宅へ集まってきた。また、前日のホームパーティ交流会で農家との対面、交流を済ませていたこともあって、すんなりと体験がスタートできた。



農作業は大きく2つ、ひたすら玉ねぎの定植と収穫体験である。広大な敷地の畑に敷かれたマルチのポットにただただひたすら玉ねぎの苗を植えていく作業である。農家にとってはいつもの作業であるが、参加者にとっては貴重な体験となり楽しみながら作業が行えた。おかげで農家は大助かり！ということで、ご褒美として露地野菜（サツマイモ、ネギ、ニンジンなど）の収穫体験を楽しみ、たくさんのお土産となった。お昼は納屋にコンテナにコンパネを敷いた簡易食卓を作成。温かい豚汁とご飯、農家の育てた野菜の漬物を頂きながら交流が行えた。

午後は、中井町の里都まちcaféへ移動して3日間のおさらいとして、リフレクションを実施した。農ある暮らし「お試し暮らし型」ワーケーションに参加して何が達成できたのか、自身の気持ちの変化などのインタビュー調査を行なったり、アンケートへの協力をお願いしたりして解散となった。帰りの小田急線「新松田駅」のホームから笑顔で野菜を抱える参加者の写真がLINEグループへ届いた。地方で働きながら農ある暮らしを送るイメージづくりにつながる3日間となったように感じた。



2 モデル

地域のお仕事体験 「ワーキングホリデー型」ワーケーション

あしがら
「定住人口」の創出につながる関係人口の創出に向け、「働き方」と「地域交流」を軸とし、移住・定住あるいは二拠点居住など新しいライフスタイルの獲得に向け、新たな「働き方（生活）」がイメージできるよう、地域のお仕事体験をする『ワーキングホリデー型』のワーケーション事業の磨き上げ・造成を行なった。

箱根・小田原

1日目（2/16.金）

本ツアでは、開始に先立ち LINE オープンチャット機能を活用した事前情報の提供と交流の場を設定した。2泊3日という短期間で地域の魅力を実感していただくべく、旅の計画立案、参加者同士の把握時間を事前に実施してもらうという仕掛けである。オープンチャットのノート機能を利用し、「お名前／フルネーム」「好きな食べ物」「好きなこと」「メッセージ」の4点とプロフィール写真の掲載を依頼した。また、事務局からは地域の観光情報を配信。旅マエにあしがらエリアのイメージづくりを行なった。

集合・オリエンテーション会場は、南足柄市女性センターとした。会場の建物には、参加者の宿泊するホテルとざんコンフォート大雄山やコワーキングスペースのヴェルミ minami も入居しており、非常にアクセスが良いことを考慮した。10時を過ぎるとパラパラと参加者が集まり、定時に開始することができた。都内や横浜市からの参加が多くを占める中、秋田県や愛知県などからの参加もあった。オリエンテーションでは、3日間の過ごし方やお仕事体験の内容やアクセスの確認など事務的なことをお伝えしたのち、ともに過ごす方々の交流促進とツアーへの参加意欲向上、ともに活動するメンバーとより深いお仕事体験ができるよう、自己紹介やお互いの



理解醸成につながるアイスブレイクを行なった。一気に堅い表情は緩み、和気藹々とした雰囲気が出来上がった。その中で、「事前に LINE オープンチャットがあったのでどんな方が参加するのか分かって安心した」という声が聞けた。オリエンテーションが終わったら昼食以降はフリープログラムとなる。LINE オープンチャットやアイスブレイクの効果もあり、初対面の方々と一緒に食事に出かけたり、同じコワーキングスペースにテレワークに出かけたりする様子が伺えた。そのほか、LINE オープンチャットへの投稿から、「コワーキングスペースの Wi-Fi 環境の共有」「平日ランチ 100 円割引の情報」「ラー



- 日 程：2024年2月16日（金）～18日（日）の2泊3日にて実施
- 参加者：地域への「関わりしろ」を求める方、および、セカンドライフを地方に求める方をターゲットに14名の参加
- エリア：小田原市・南足柄市・中井町・大井町・松田町・開成町・山北町
- 協 力：ホテルとざんコンフォート大雄山（共同運営）、株式会社リロクラブ（広報協力）、お仕事受入先（10箇所）

「メン屋の情報」が投稿されたり、「道の駅／足柄・金太郎のふるさと」「小田原フラワーパーク」「最乗寺」「まつだ桜まつり」「BIOTOPIA」「ヤオマサ（地元スーパー）」などへ観光に行ったりしていたことが分かった。

2日目（2/17. 土）

2日目からは選択制による【地域のお仕事体験1】となり、各々が直接、お仕事場へ出向いていただく。場所や距離を調べてそれぞれの時間に出発していた。

本日は6箇所でのお仕事体験を実施した。まずは、山北町。中川温泉信玄館でのお仕事体験。山間、純和風の



温泉旅館でのお仕事体験として、朝食の下膳、客室・浴室清掃、タオルたたみなどを実施した。バックヤードを見る貴重な体験の機会となった／3名参加。NPO法人共和のもりでは、森林保全・管理を行うNPOでのお仕事体験として、森林整備の一貫として行われる薪づくりや椎茸の菌打ちなどを実施した。チェーンソー・薪割り機を使って薪づくり作業に汗を流した／3名参加。道の駅「山北」では、比較的コンパクトな道の駅でのお仕事体験として、商品の陳列サポート、販売サポート、お客様対応などを実施した／1名参加。大井町は、水の管理から徹底してこだわってトマトを栽培しているあしがら



名産・桜花漬のおむすび

あしながの
手打ち蕎麦・地粉

相模湾の鮮魚

5歳の地酒



箱根・小田原

内藤農園でのお仕事。甘いトマトを栽培するトマト農家でのお仕事体験として、ひたすら芽かき作業を実施。時には甘いトマトの試食もさせていただきご満悦の様子であった／2名参加。中井町は、広大な敷地で露地野菜を育てる農家でのお仕事体験として、ダイコンやニンジンの播種作業、トンネルの設置作業、収穫作業、梱包作業などを実施した。風が吹き寒い中ではあったが、みな楽しく黙々と作業に没頭した。ごほうびとして、新鮮とれたて野菜の鍋を提供いただき、ランチ交流を行なった／3名参加。小田原市は、あきさわ園でのお仕事体験である。適地適作にてさまざまな作物を育てる農園でのお仕事体

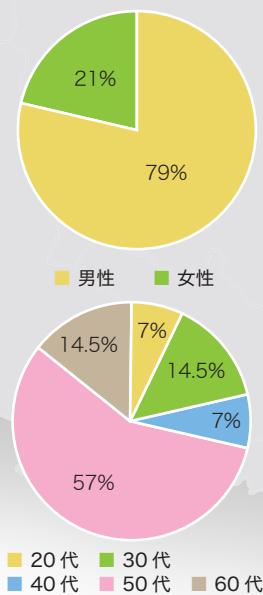


験として、玉ねぎ畠の草むしり等の整備、キウイフルーツの剪定、梅の剪定などを実施した。農園でのお仕事は採れたて野菜の昼食をご提供いただき、ご褒美とともに交流を楽しむことができた／3名参加。

午後は参加者が自由に過ごすフリープログラムである。LINE オープンチャットのコンシェルジュ機能を活用した観光へ行く方、コワーキングスペースでテレワークする人など様々であった。LINEへの投稿から「芦ノ湖」「篠杉」「おんりーゆー」「箱根湯寮」「足柄神社」へ観光に行く方、篠沢荘喫茶室にてテレワークや女将との交流をする様子などが分かった。また、夕食は各自、そ



■ 参加者の属性（性・年代）



■ 参加者募集チラシ／ツアーホーム



1 地元の方と交流できるのが魅力。
いちきの「お仕事体験を通じて、普段とは違う角度からあしがらの魅力発見！」
お仕事体験先／各2~3名の希望者
詳しくは、www.taikenenkankou.com/workcation02.htmlをご覧ください。

2 コンシェルジュが旅をサポート!
お勤めスポット、グルメ情報など、旅のサポート体制であります。

3 クワーキングスペースを自由に活用!
(アグリエコ系 minerva/農業体験、E.ワーキングスペース/松田町、C.要津温泉旅館/山北町)

行程・スケジュール

2月16日
10:30 南足柄市女性センター集合
午後：各地区の「お仕事体験」
午後：【お仕事体験】温泉宿
午後：【お仕事体験】農業体験

2月17日
午前：【お仕事体験】温泉宿
午後：【お仕事体験】農業体験
午後：【お仕事体験】農業体験

2月18日
午前：【お仕事体験】温泉宿
午後：【お仕事体験】農業体験

費用

F13,400 内訳：2泊3日の宿泊費
※宿泊料金は、神奈川県の宿泊施設にて、2泊3日で宿泊料金を支払う場合の料金です。
※オーファーは、神奈川県の宿泊施設にて、2泊3日で宿泊料金を支払う場合の料金です。
※オーファーは、神奈川県の宿泊施設にて、2泊3日で宿泊料金を支払う場合の料金です。
※オーファーは、神奈川県の宿泊施設にて、2泊3日で宿泊料金を支払う場合の料金です。

参加対象

成人で参加の方：24名程度（女性優先）
※オーファーは、神奈川県の宿泊施設にて、2泊3日で宿泊料金を支払う場合の料金です。

申込

2024年2月8日(木)17:00までにQRコードを読み取ったページから、希望するお仕事体験先を第4希望まで選び、
お問い合わせ

一般社団法人 神奈川大手の農業体験実践会議会
神奈川県足柄上郡吉田町248 TEL/FAX:0465-43-6309 E-mail:office@taikenenkankou.com HP:<http://www.taikenenkankou.com>

お問い合わせ

お問い合わせ



それぞれに取っていたようである。

3日目 (2/18. 日)

最終日も選択制による【地域のお仕事体験2】となり、各々が直接、お仕事場へ出向いていただく。本日も6箇所に分かれてのお仕事体験を実施した。山北町では昨日に続きNPO法人共和のもりでのお仕事体験／2名参加と信玄の隠し湯とされる日帰り温泉、中川温泉ぶなの湯でのお仕事体験として、入館前清掃、設備点検、湯質検査、お客様の受入などを実施した。温泉好きという参加者からは「バックヤードの仕事体験が見れて非常に楽しい」と話しながら仕事に没頭していた／2名参加。南足柄市では、丘の上にある小規模飼育にて養豚を行う農場こぶた畑でのお仕事体験として、散らかっていた薪の整理、敷地内のみかんの残もぎ、豚の餌つくりなどを実施した／2名参加。松田町では、関東最大級のドッグラン施設、寄七つ星ドッグランでのお仕事体験として、犬の散歩、施設の見回り、施設で活用する鹿の角磨きなどを実施した／1名参加。開成町では、土づくりからこだわり抜いたイチゴ農家、佐野ファームでのお仕事体験として、イチゴの苗の管理作業を実施。時にはイチゴの試食もさせていただいたようである／3名参加。そして、昨日に引き続き、小田原市のあきさわ園でのお仕事体験を



行なった／4名参加。

午後からは、リフレクションのため南足柄市女性センターへ全員集合した。2泊3日と限られた日程であったため、今回体験できなかったお仕事についても理解や意見を深めていただくため、体験したお仕事についての共有を行なった。多くの質疑が飛び交い盛り上がり上がっていた様子などから、あしがらの魅力の感じていただくことにつながったと実感した。解散後も会場に残って、今後の関わり方などの相談を受けるなど、参加者にとって非常に良い機会になったことが伺えた。

事業評価

1. 調査の目的

本調査は、令和5年度「県西地域における広域ワーケーションモデル事業の企画・運営等業務委託」(神奈川県)の一環として実施したワーケーションモデルツアー（以下「ワーケーション」）、農ある暮らし「お試し暮らし型」ワーケーション（2023年11月10日～12日）と地域のお仕事体験「ワーキングホリデー型」ワーケーション（2024年2月16日～18日）の事業評価を目的に実施した。

2. 調査方法

1) 対象者

本調査は、2つのワーケーションに参加した成人20名（男性12名：60.0%、女性8名：40.0%）を対象とした（表1）。参加者の婚姻状況は、「既婚」13名（65.0%）、「未婚（離死別含む）」7名（35.0%）、子供の有無は、「有り」9名（45.0%）、「無し」11名（55.0%）であった。また、ワーケーションの終了後、それぞれのツアーの受け入れ協力者16名（農ある暮らし「お試し暮らし型」ワーケーション：4名、地域のお仕事体験「ワーキングホリデー型」ワーケーション：12名）に受け入れの感想やモデルツアーの良かった点・改善点などについて調査票を用いて尋ねた。

表1 対象者の性・年代

	農ある暮らし 「お試し暮らし型」 ワーケーション（6名）		地域のお仕事体験 「ワーキングホリデー型」 ワーケーション（14名）	
	男性（1名）	女性（5名）	男性（11名）	女性（3名）
20歳代 /1名	0名	0名	1名	0名
30歳代 /3名	1名	0名	2名	0名
40歳代 /5名	0名	4名	1名	0名
50歳代 /9名	0名	1名	5名	3名
60歳代 /2名	0名	0名	2名	0名

2) 調査概要と質問項目

参加者には、モデルツアーの事業評価を目的に、モデルツアー初日と最終日に質問紙調査を実施した。受け入れ協力者へは終了後に質問紙調査を実施した。

3. 事前調査の結果

1) 参加者の働き方のスタイル、

働いている企業の従業員数、勤務地

参加者の働き方のスタイルは、「勤務日はほぼ在宅勤務」が6名（30.0%）で最も多く、次いで「在宅勤務とオフィス勤務の両方（在宅勤務の割合が多い）」5名（25.0%）、「勤務日はほぼオフィス勤務」4名（20.0%）、「在宅勤務とオフィス勤務の両方（オフィス勤務の割合が多い）」2名（10.0%）の順であった（無回答1名）。その他（2名）の回答は、「フリーランス」「2つの仕事を兼業」であった。働いている企業の従業員規模は、「10人以下」3名（15.0%）、「11～50人」4名（20.0%）、「51～100人」2名（10.0%）、

「101～300人」0名（0.0%）、「301～1000人」3名（15.0%）、「1001人以上」6名（30.0%）、「分からぬ」1名（5.0%）、「無回答」1名（5.0%）であった。勤務地は、東京都10名（港区・2名、板橋区、品川区、渋谷区、中央区、八王子市・各1名、市区町村記載無し・3名）、神奈川県7名（横浜市・2名、厚木市、逗子市36／三浦市、伊勢原市、川崎市、相模原市・各1名）、秋田県1名（秋田市）、愛知県1名（名古屋市）、台湾1名（都市の記載無し）であった。

2) 神奈川県西部（小田原市、南足柄市、足柄上郡、足柄下郡）との関わり（複数回答）

「神奈川県西部（小田原市、南足柄市、足柄上郡、足柄下郡）との関わり」では、「観光で訪れたことがある」が13名（65.0%）で最も多く、次いで「仕事で訪れたことがある」4名（20.0%）、「知り合いがいる」「関係がない」各3名（15.0%）の順であった。その他（2名）の回答は「通りすぎたことがある」「子供の試合」であった。

3) 今回のワーケーションを知ったきっかけ（複数回答）

「ワーケーションを知ったきっかけ」では、「メールマガジン（発信元：クラブオブ Lumine style、JAF、福利厚生系のメルマガ、三井ダイレクト損保）」が7名（35.0%）で最も多く、次いで「神奈川大井の里体験観光協会のHP、SNS、ダイレクトメール」6名（50.0%）、「神奈川県のHP、SNS」2名（10.0%）、「各種情報サイト（サイト名：SMOUT）」「募集チラシ（入手した場所：コンコントフィールド）」が各1名（5.0%）であった。その他（6名）の回答は「友人・知人からの紹介（4名）」「新聞」「SMART NEWS」であった。

4) 今回、提示したツアー及び神奈川県西部の

どのような点に魅力を感じるか（複数回答）

「今回、提示したツアー及び神奈川県西部のどのような点に魅力を感じるか」の集計結果を図1に示す。「自然の中でリフレッシュ効果が得られそう」「都心からの電車でのアクセスが良い」が各10名（50.0%）で最も多く、次いで、「農業体験ができる」「地域の人と交流する機会を得られそう」各9名（45.0%）、「温泉地である」「地元の食材・グルメを堪能できそう」各7名（35.0%）の順であった。

5) ワーケーションを実施したい理由（複数回答）

「ワーケーションを実施したい理由」の集計結果を図2に示す。「リフレッシュ効果が得られそうだから」が13名（65.0%）で最も多く、次いで「テレワークができる職場や業務内容だから」「働く場所にこだわらなくてすむようになったから」各8名（40.0%）、「混雑時期を避けて旅行ができる」「働き方改革（ワーカーライフバランスを含む）が推進できそう」各5名（40.0%）の順であった。その他（2名）の回答は「自分の理想の暮らしができそう」「何となく」であった。

6) ワーケーションに誰と一緒に行きたいか

「ワーケーションに誰と一緒に行きたいか」では、「1人」

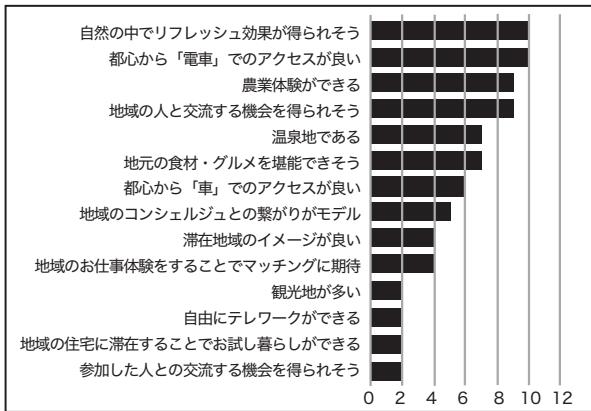


図1 今回、提示したツアー及び神奈川県西部のどのような点に魅力を感じるか（複数回答可）

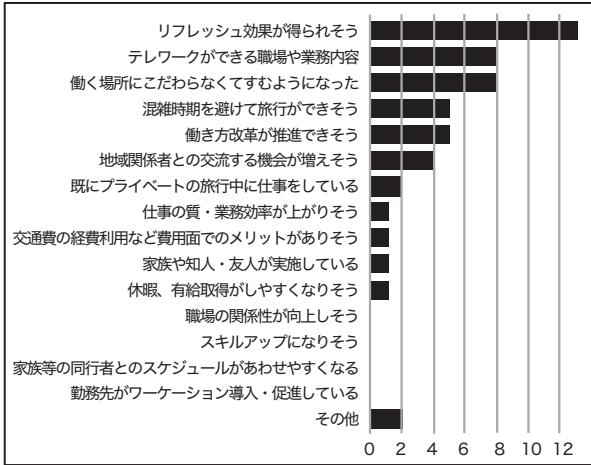


図2 ワーケーションを実施したい理由（複数回答可）

が8名（40.0%）で最も多く、次いで「家族や恋人」7名（35.0%）、「異業種の友人や知り合い」「同業種の友人や知り合い」「会社の同僚（少人数）」各1名（5.0%）の順であった（無回答・欠損2名）。

4. 事後評価の結果

1) 今回のワーケーションの価格について

「今回のワーケーションの価格」は、12名（60.0%）が「ちょうど良かった」、6名（30.0%）が「安いと感じた」、2名（10.0%）が「高いと感じた」と回答した。

2) 今回のワーケーションの日数について

「今回のワーケーションの日数」は、19名（95.0%）が「ちょうど良かった」、1名（5.0%）が「長い期間が良い」（7泊8日）と回答した。

3) 今回のワーケーションの実施時期について

「今回のワーケーションの実施時期」は、17名（85.0%）が「ちょうど良かった」、残りの3名は「春頃」「5月」「8月」が良いと回答した。

4) 今回のワーケーション全体の満足度

「今回のワーケーション全体の満足度」は、12名（60.0%）が「とても満足した」、8名（40.0%）が「まあまあ満足した」と回答した。評価の理由（自由記述）は、「地元の人が優しい（評価：とても満足した）」「普段は体験することができないことを体験できたから（評価：とても満足した）」「体験活動がしっかりと組まれていて、良い体験ができた。時間も自由な時が多く、体力をみながら参加ができた（評価：とても満足した）」「宿がイマイチ（評価：まあまあ満足

した）」「体験は良かった。別の体験もしたい（評価：まあまあ満足した）」であった。

5) ワーケーション参加後の神奈川県西部（小田原市、南足柄市、足柄上郡、足柄下郡）地域に対する印象の変化

「ワーケーション参加後の神奈川県西部地域に対する印象の変化」は、15名（75.0%）が「良い方向に変わった」、5名（25.0%）が「変化なし」と回答した。「印象が良い方向にどのように変化したか」（自由記述）の回答は表2に示す通りである。

表2 良い方向に変わったと回答した理由
(個人が特定できる情報を削除した上で、出来る限り原文のまま記載)

・魅力ある歴史や人が（文化）いてもっと知りたいと思った。
・土地の持つ豊かさを知ることができたのでよかったです。
・里山にきれいな風景。
・良いがより良く変わった。人が温かい。
・直接地元の方と交流したこと得られた情報や人柄がよかったです。
・やっぱり地方もあたたかみがあつて良いなと思いました！
・色々と特産物を売り出そうとしている事。
・それぞれの質が良く、人々もあたたかく、静かな感じで過ごしやすい。
・お仕事体験が楽しかったです。
・足柄への興味が強くなった。

6) ワーケーション参加後のワーケーションに対する印象の変化

「ワーケーション参加後のワーケーションに対する印象の変化」は、9名（45.0%）が「良い方向に変わった」、11名（55.0%）が「変わらなかった」と回答した。印象が良い方向にどのように変化したか（自由記述）の回答は表3に示す通りである。

表3 良い方向に変わったと回答した理由
(個人が特定できる情報を削除した上で、出来る限り原文のまま記載)

・実際に活動している人たちとの触れ合いあって、質問したり話を聞けたのが良かった。
・地域や農業に関するこの説明がとても丁寧で充実した内容でした。
・日常のせまい世界で生きていて、しんどいと思うこともありますが、働く場を変えることで視野が広がって心に余裕が生まれました！
・地域の人々とふれ合いができるので良かった。
・お仕事体験が楽しかったです。
・自然の近くでお仕事ができる為、リフレッシュになる。

7) ワーケーションに参加して得られたことや感じたこと（複数回答）

「ワーケーションに参加して得られたことや感じたこと」の集計結果を図3に示す。「地域の人と交流する機会を得られた」が15名（75.0%）最も多く、次いで「神奈川県西部（箱根・小田原）をプライベート（旅行など）で再度訪れたい」12名（60.0%）、「今後も地域の人との交流を続けたい」11名（55.0%）の順であった。その他（2名）の回答は「多くの素晴らしいところがある」「自分自身に対するシゲキになったと思う。新しい気力を自覚した」であった。

8) ワーケーションを実施する上で必要と考えるもの（複数回答）

「ワーケーションを実施する上で必要と考えるもの」の集計結果を図4に示す。「地域の魅力を体験できるアクティビティや体験コンテンツ」が14名（70.0%）で最も多く、

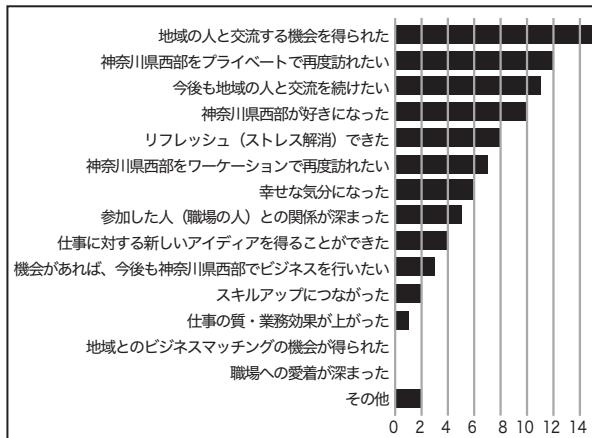


図3 ワーキングに参加して得られたことや感じたこと（複数回答可）

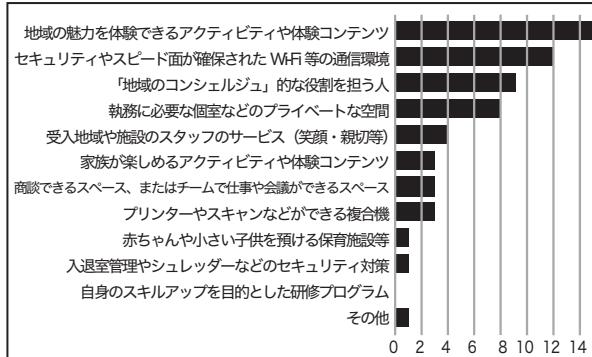


図4 ワーキングを実施する上で必要と考えられるもの（複数回答可）

次いで「セキュリティやスピード面が確保されたWi-Fi等の通信環境」12名(60.0%)、「地元の企業や人との繋がりをサポートする地域のコンシェルジュ的な役割を担う人」9名(45.0%)の順であった。その他(1名)の回答は、「喫煙所、喫煙席」であった。

9) 今回のワーキングで満足できた点（複数回答）

「今回のワーキングで満足できた点」は、「地元の企業や人との繋がりをサポートする地域のコンシェルジュ的な役割を担う人」「地域の魅力を体験できるアクティビティや体験コンテンツ」「セキュリティやスピード面が確保されたWi-Fi等の通信環境」が各4名(20.0%)で最も多く、次いで「受け入れ地域のスタッフのサービス（笑顔・親切等）」3名(15.0%)の順であった。その他(3名)の回答は、「農業は甘くないと感じることが出来た」「自然とふれあえる、温泉に入る」「くつろげる部屋だった」であった。

10) 地域と継続的に関わり、関係性を深めていくために必要なもの

「地域と継続的に関わり、関係性を深めていくために必要なもの」の集計結果を図5に示す。3分の2以上(15名以上)が「必要」（「非常にそう思う」「そう思う」と回答した項目は、「経済的な余裕が必要である」（「非常にそう思う」9名、「そう思う」11名）、「地域の人との良好な人間関係の構築が必要である」（「非常にそう思う」9名、「そう思う」10名）、「地域と関わる時間的な余裕が必要である」（「非常にそう思う」6名、「そう思う」13名）、「買い物などの生活の利便性が必要である」（「非常にそう思う」5名、「そう思う」12名）の4項目であった。自由記述の回答は表4に示す通りである。

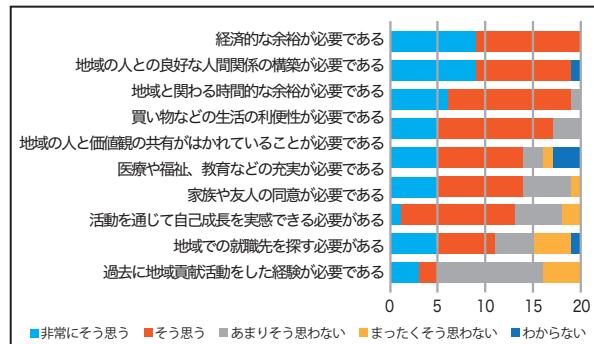


図5 地域と継続的に関わり、関係性を深めていくために必要なもの

表4 地域と継続的に関わり、関係性を深めていくために必要なもの
(個人が特定できる情報を削除した上で、出来る限り原文のまま記載)

・貴重でおもしろい体験をありがとうございました！ぜひ機会があれば、今後も大井町の地域の方と交流を続けていきたいと思います。
・再会できるイベントがあるといい。
・2泊3日貴重な体験をありがとうございました！次はハンター塾で来ます！目指せ若手ハンター！
・地域の人と来訪者のお互いが相手の求めていることを理解していることがとても重要だと感じました。
・定期的に訪問できるような補助施策や外来者向けのイベントがあると良い。
・地域からの発信（SNSなど）で興味を引くもの（イベント情報など）があれば再訪することもあると思います。
・今回のイベントに参加でき、ありがとうございました。地元の農家と連絡を続けていきたい。

11) ワーキング参加前後の神奈川県西部（小田原市、南足柄市、足柄上郡、足柄下郡町）への考え方（気持ち）や態度の変化

ワーキング参加前後の「神奈川県西部（大井町・南足柄市）への考え方（気持ち）や態度」の変化の集計結果を表5に示す。ワーキング参加前と比べて、参加後に肯定的な回答（「非常にそう思う」「そう思う」の合計）が増えた項目は、「周囲の人に神奈川県西部をおすすめしたい」(15名→19名)、「ふるさと納税の返礼品購入などを通じて、神奈川県西部と関わりたい」(11名→12名)、「神奈川県西部の人たちと交流したい」(16名→19名)、「神奈川県西部を継続的に訪問したい」(18名→19名)、「神奈川県西部に拠点を持つ事業所で、本業として仕事（業種は問わず）を行いたい」(9名→10名)、「神奈川県西部で、直接地域のためになる貢献活動（ボランティアや共助活動など）を行いたい」(13名→15名)の6項目であった。

5. 受け入れ協力者

1) 今回実施したような神奈川県西部での取り組みについて、どのように感じたか

「今回実施したような神奈川県西部での取り組みについて、どのように感じたか」は、10名(62.5%)が「非常に良いと思う」、5名(31.3%)が「良いと思う」、1名(6.3%)が「あまり良いと思わない」と回答した。その理由（自由記述）は、表6に示す通りである。

2) 今回、参加者の受け入れ実施して、どのように感じたか

「今回、参加者の受け入れ実施して、どのように感じたか」は、7名(43.8%)が「非常に良かった」、9名(56.3%)が「良

表5. ワーケーション参加前後の神奈川県西部
(小田原市、南足柄市、足柄上郡、足柄下郡)への考え方(気持ち)や態度の変化

	非常に そう思う		そう思う		あまり そう思わない		まったく そう思わない		わからない	
	参加前 (人)	参加後 (人)	参加前 (人)	参加後 (人)	参加前 (人)	参加後 (人)	参加前 (人)	参加後 (人)	参加前 (人)	参加後 (人)
周囲の人に神奈川県西部をおすすめしたい	5	7	10	12	1	0	0	0	4	1
神奈川県西部に関する情報をこまめに入手したい	3	7	16	10	1	2	0	1	0	0
ふるさと納税の返礼品購入などを通じて、神奈川県西部と関わりたい	3	4	8	8	5	7	1	0	3	1
神奈川県西部の人たちと交流したい	3	8	13	11	3	0	0	0	1	1
神奈川県西部を継続的に訪問したい	5	9	13	10	1	1	0	0	1	0
神奈川県西部で開催されるイベントやお祭りに参加したい	3	6	13	10	2	4	0	0	2	0
神奈川県西部に拠点を持つ事務所で、本業として仕事(業種は問わず)を行いたい	1	1	8	9	6	6	1	2	4	2
神奈川県西部に拠点を持つ事務所で、兼業・副業として仕事(業種は問わず)を行いたい	1	2	13	11	1	2	1	0	4	5
ふだん居住地で行なっている本業の仕事(業務)を、神奈川県西部でテレワークとして行いたい	2	0	8	9	5	6	1	1	4	4
神奈川県西部で、直接地域のためになる貢献活動(ボランティアや共助活動など)を行いたい	2	4	11	11	5	2	0	0	2	1
神奈川県西部の人が使う新たな商品やサービスを創出する活動をしたい	4	3	11	8	3	6	1	0	1	1
神奈川県西部で、地域資源の保全や管理に関わる活動(自然保護や環境保全、里山維持など)を行いたい	3	2	14	14	2	2	0	0	1	0
できれば、神奈川県西部に住宅を持って一定の期間暮らしたい(本拠地は別にあって)	2	2	11	8	3	5	1	0	3	3
神奈川県西部に生活の拠点を移し、地域の人たちと関わりを持ち、コミュニティに参加したい	1	2	11	9	4	4	1	0	3	3

表6 今回実施したような神奈川県西部での取り組みについて、どのように感じたか
(自由記述)
(個人が特定できる情報を削除した上で、出来る限り原文のまま記載)

(非常に良いと思う)
・農業の活動を深める活動として、大変良いと思います。又、県西地区のPRは今後も重要だと思います。
・関係人口の創出のきっかけになると思う。
・県西としてのまとまりがあれば、ご当地メニューやご当地グッズなど観光地としてのよりよくアップにつながるのでとても良いと思う。
・各地域の市町での団体の共通認識を高めてこの様なイベントを推進していくことが必要です。
・移住者を増やすのに良いきっかけ作りになると思います。
・関係人口を増やすために有意義だと思う。
・自然豊かで、県内地域では自給率も高いエリア、都心に住んだりするワーカーの方にとっては癒しの空間であると思います。現地では地場産業の空洞化も懸念事項となっているが、関係人口の増加により、資源の再付加価値化もできる。みりょく溢れる地域になるとを考えている。
(良いと思う)
・人口減少(農家)するなか、少しでも都会から田舎暮らしに興味を持つてくれる取組みであります。
・初めての事で具体的に何をどうして良いかとまどいました。
・人(地元)との交流と関心を持ってもらえる。
(あまり良いと思わない)
・行政が呼びかけなくとも来る人は来ると思います。

かった」と回答した。その理由(自由記述)は、表7に示す通りである。

3) 今回今後もこのような取り組みを実施していきたいと思うか

「今後もこののような取り組みを実施していきたいと思うか」は、4名(25.0%)が「非常にそう思う」、11名(68.8%)が「そう思う」、1名(6.3%)が「どちらともいえない」と回答した。その理由(自由記述)は、表8に示す通りである。

表7. 今回、参加者の受け入れ実施して、どのように感じたか(自由記述)
(個人が特定できる情報を削除した上で、出来る限り原文のまま記載)

(非常に良かった)
・あまり仕事がなくて申し訳なかったですが、すでに興味を持って参加されている方なので、コミュニケーションがスムーズで楽しく交流できました。
・受け入れ側としても楽しめました。
・西部の地域に興味を持つてもらえることは素晴らしいことだと思う。 (良かった)
・収穫等を手伝っていただいた点がたすかりました。将来的には一般的な農家で実施できると良いですね。
・農家以外の人との交流が図れた。
・平日の受け入れであれば、もっと多くの仕事を体験していただくことができた。
・当施設に興味を持っていただいた方に、より理解を深めていただけるのは、とてもよかったです。
・非常に良い方で明るく元気な方で良かったと思います。
・数人の団体の方は初めて受けたが、コミュニケーションの内容が深く良い会話等が出来て参考になりました。
・仕事を手伝ってもらった分、単純に助かる。
・個々の事情などもわかった。

4) 今回の取り組みに限らず、(一社)神奈川県大井の里体験観光協会と連携した取り組みを継続したいと思うか

「今回の取り組みに限らず、(一社)神奈川県大井の里体験観光協会と連携した取り組みを継続したいと思うか」は、7名(43.8%)が「非常にそう思う」、9名(56.3%)が「そう思う」と回答した。その理由(自由記述)は、表9に示す通りである。

5) 今後も継続して実施する場合、

課題になること、改善・整備すべきこと(自由記述)

「今後も継続して実施する場合、課題になること、改善・整備すべきこと」の回答は、表10に示す通りである。

表8 今後もこのように取り組みを実施していきたいと思うか
(個人が特定できる情報を削除した上で、出来る限り原文のまま記載)

(非常にそう思う)
・地域の良い所をもっと知ってもらいたいです。
・関係人口の増加と地域の魅力アップには不可欠な取り組みだと考えます。
(そう思う)
・大変良いことだと思います。
・限界集落地域での活動においては、必要な取り組みであり、今後情報交換しながら行っていきたい。
・楽しかった。
(どちらともいえない)
・希望があるなら受入れは可能。

表9 今回の取り組みに限らず、(一社)神奈川県大井の里体験観光協会と連携した取り組みを継続したいと思うか
(個人が特定できる情報を削除した上で、出来る限り原文のまま記載)

(非常にそう思う)
・活用出来ていない地域資源をどんどん発掘、活用していただきたいです。良いものを持っていても発信力が無かったりするので、協会のみなさんと連携しつつ、他のみなさんと連携していきたいです。
・今回の実施の足りなかった点等を再検証し、西部の魅力アップ、地域の雇用創出も含めていきたいと考えています。
・いつも楽しい。
・色々なコンテンツを持っておられるので。
(そう思う)
・日頃の情報交換が必要だと思うから。
・関係は多い方が良い。

表10 今後も継続して実施する場合、課題になること、改善・整備すべきこと
(自由記述)
(個人が特定できる情報を削除した上で、出来る限り原文のまま記載)

・アナウンス、募集についてupしていきましょう。
・女性の参加者の場合、トイレが課題となる。
・参加者が増えると良いと思います。
・アナウンス手法（人集め）、アピール。
・平日で少人数でお願いします。
・日頃の活動の情報収集が必要だと思います。
・仕事があまり無い時や逆に忙しすぎる時、うまく交流できるかなと思います。
・昼食について工夫の余地があったと思います。
・実施計画についても事前にスケジュール、実施内容のすり合わせというか、プログラムの内容のボトムアップ（満足度の向上）のための意思疎通をはかれればよかったです。
・タイムスケジュール。時間がわかると良い。
・行政等の補助がないと成り立たない。

6.まとめ

1) 参加者のモデルツアーハーへの参加目的及び動機

事前調査の結果、半数の参加者が、神奈川県の県西地域の魅力として「自然でリフレッシュ」と「都心から電車でのアクセスが良い」を挙げていた。また、ワークーションを実施する理由に関して、6割以上の参加者が「リフレッシュ効果」と回答した。これらの結果から、参加者の多くは自然の中でのリフレッシュ体験を目的にモデルツアーハーに参加したことが分かる。また、都心からの電車でのアクセスの良さは、神奈川県の県西地域のアドバンテージとなっている。

2) ワークーション（モデルツアーハー）の満足度

事後調査の結果、全参加者が今回のワークーションに対して「とても満足した」または「まあまあ満足した」と高い評価をつけた。自由記述から得られた評価理由は、ポジティブなものでは「地元の人が優しい」「普段は体験できないことを体験できた」「しっかりと組まれた体験活動」が挙げられた。

3) ワークーション参加後の神奈川県西部地域に対する印象の変化と関係人口の創出の可能性

7割以上の参加者がワークーション参加後の神奈川県西部地域に対する印象が「良い方向に変わった」と回答した。その理由として、多くの参加者が「人の温かさ」を挙げ、他にも「きれいな里山の風景」や「土地が持つ豊かさ」など、神奈川県西部地域の自然に関する理由が挙げられた。また、ワークーションに参加して得られたことや感じたことに関しては、半数以上の参加者が「地域の交流の機会が得られた」「神奈川県西部をプライベートで再度訪れたい」「今後も地域の人との交流を続けたい」「神奈川県西部が好きになった」を挙げている。モデルツアーハー参加前後の神奈川県西部地域への考え方や態度の変化に関して、「神奈川県西部をおすすめしたい」「神奈川県西部の人たちと交流したい」と考える参加者は増加している。これらの結果から、多くの参加者が地元の人との交流に満足し、今後も神奈川県西部を訪れ、地域の人々と交流を望んでいることが伺え、今回のモデルツアーハーが神奈川県西部地域の関係人口の創出・拡大につながる可能性が示唆された。

4) 受け入れ協力者からみたモデルツアーハーの良かった点・改善点

今回のモデルツアーハーについて、多くの受け入れ協力者は、県西地域の魅力をアピールできる良い取り組みであると評価しており、関係人口の創出・拡大のきっかけになり、観光地としての魅力向上につながると感じている。また、参加者とのコミュニケーションを楽しみ、県西地域に興味を持ってもらえることに喜びを感じていることも伺える。今後の課題としては、参加者の満足度を向上させるための仕事（コンテンツ）の検討や整備、参加者を増やすための戦略やアピール方法の検討が挙げられた。評価しており、関係人口の創出・拡大のきっかけになり、観光地としての魅力向上につながると感じている。また、参加者とのコミュニケーションを楽しみ、県西地域に興味を持ってもらえることに喜びを感じていることも伺える。今後の課題としては、参加者の満足度を向上させるための仕事（コンテンツ）の検討や整備、参加者を増やすための戦略やアピール方法の検討が挙げられた。

※調査に関しては、質問紙項目の設計並びに、分析については、文化学園大学安永明智教授に協力ををお願いし調査を実施した。



安永 明智（やすなが あきとも）

文化学園大学国際文化学部・教授

九州大学大学院人間環境学研究科博士

後期課程修了（博士・人間環境学）

専門は健康心理学

日本健康支援学会・評議員

主な著書：「健康心理学・シリーズ健康心理学と仕事 12」

（分担執筆）北大路書房